

# ～集落ぐるみのイノシシ被害対策～

(取組主体名) 沢渡地区獣害対策協議会  
(所在地) 宮城県黒川郡大和町沢渡



## ■ 組織のプロフィール

沢渡地区は船形山麓（大和町最西部）にあり、以前から野生獣被害（ツキノワグマ等）が発生している地域である。

平成24年ごろからイノシシの目撃件数が急増し、農林産物の食害、踏み荒らしなどが発生している。

沢渡地区獣害対策協議会は地区住民で組織され、平成26年度に集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業に取組み、以後、地域ぐるみの対策を継続している。

## 1. 取組のきっかけ

- 近年、イノシシによる被害が急増し、忌避剤や爆竹の鳴動などを実施してきたが、ほとんど効果がなく、また、イノシシの個体数の急増により、駆除隊による有害捕獲活動だけでは不十分な状況になっていた。
- 平成26年度鳥獣被害防止総合対策交付金により、地区内を防護柵（ワイヤーメッシュ柵）で囲み、あわせて環境整備等も実施し、地区内からイノシシを排除する取り組みを行うこととなった。

## 2. 取組の内容と特徴

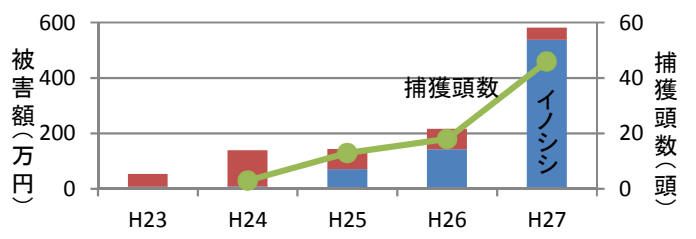
- 防護柵の設置に先立ち、合同会社東北野生動物保護管理センター職員（以下「センター職員」）の指導により、イノシシの生態と能力、被害の事例、被害対策の座学研修を行うとともに、被害農地、侵入場所・侵入経路、農作物以外でイノシシの餌や隠れ場所はないかなど、集落を歩いて環境点検を行い、点検結果を地図に書き込み、被害防止計画案の作成、防護柵の設置経路の検討を行った。
- センター職員による防護柵の設置方法の実演後、地区の農地全体を囲う形で総延長11kmの防護柵を、地区住民の自力施工で設置した。



地区住民による防護柵設置作業

## 3. 被害及び捕獲推移

- 大和町では、西部を中心に被害が増加し、農林作物の食害等が深刻化している。
- 箱わな等の整備により、イノシシの捕獲頭数は年々増加しているが、個体数も急増しているため、被害減少には至っていない。
- 沢渡地区では、防護柵設置後以降、地区内の農林作物への被害は出ていない。



大和町におけるイノシシ被害額・捕獲実績

## 4. 課題と今後の展望

- 平成27年8月には、防護柵設置後1年間管理した中で気になる箇所等について、センター職員と地区代表者で現地確認を行い、現地確認で得た情報を地区住民全体で共有し、集落ぐるみで防護柵の維持管理について学び、今後の対策について検討を行っている。
- 防護柵を設置した地区では効果は高いものの、未設置地域での被害増大を招いており、捕獲を含め広域において対策を講じていく必要がある。